

2020年12月26日

SPSF コース主任

丸山英樹

FD 委員会への報告書

学習する組織シリーズ「システム思考トレーニング」2日間集中コースについて

日 時：2020年11月26日9～17時と11月27日9～17時の2日間

場 所：Zoom ((有)チェンジ・エージェントのホスト, <https://www.change-agent.jp/>)

出席者：

報告者を含め30名（Zoom上、個人情報は共有されなかったが、神戸大学および立命館 APU から教員が1名ずつの参加は確認でき、それ以外は一般企業と NPO 関係者であった。）

内 容：

システム思考とは、経済や社会、自然環境などの複雑なフィードバックをもつシステムを解析し、望ましい変化を創り出すための方法論であるシステム・ダイナミクスにもとづき、しかしながらコンピューターを用いたシミュレーション部分を省いた手法である。システム・ダイナミクスは、物事をシステムとしての全体像でとらえ、システム構成要素間のフィードバック構造をモデル化し、問題の原因解析や解決策を探るためにシミュレーションを行うことで、実社会に存在するさまざまな問題の効果的な解決を図るアプローチである。本集中コースは、初日（11/26）で主に基礎レクチャー、翌日（11/27）で主に演習ワークショップを通して、システム思考を学修する2日間の構成であった。

SPSF コース主任として本コースへ参加する目的は、以下の2点であった。1) SPSF 所属の3年生が必須科目「Third Year Seminar for Sustainable Futures」で取り組む PBL 形式課題で用いるアプローチがシステム思考であるため、具体的な教育手順を確認すること。2) システム思考の提唱者（例：メドウズ）たちは1970年代から持続可能性の概念を国際的に牽引し（例：『成長の限界』）、現在のSDGsの背景にある思想を支えている。その思想をより具体的に扱うツールがシステム思考であり、報告者は既に書籍から知識を得ていたが、ツール活用の手順に不案内であったため、それを解消すること。

コースへ参加した結果、次の知見を得た：

- 1) 学部生にとっては1学期のみでシステム思考の全手順をこなすことは困難。
- 2) ただし、身近な課題からグローバル課題への連結は短期間でも可能。
- 3) ワークショップ形式によって学際的アプローチの活用を確認。特に、専門知を用いても分野外の者との対話が可能であることから、SPSFの3年次においてシステム思考を用いるのは、想定通りに最適であることを確認。

以上のことから、SPSF 主任として既に蓄えていた理論に加えて、具体的な教育手順を習得することができ、上記 SPSF 必須科目への準備となったことを報告します。

以上